



だて正夢

登米地域の稲作通信 第2号

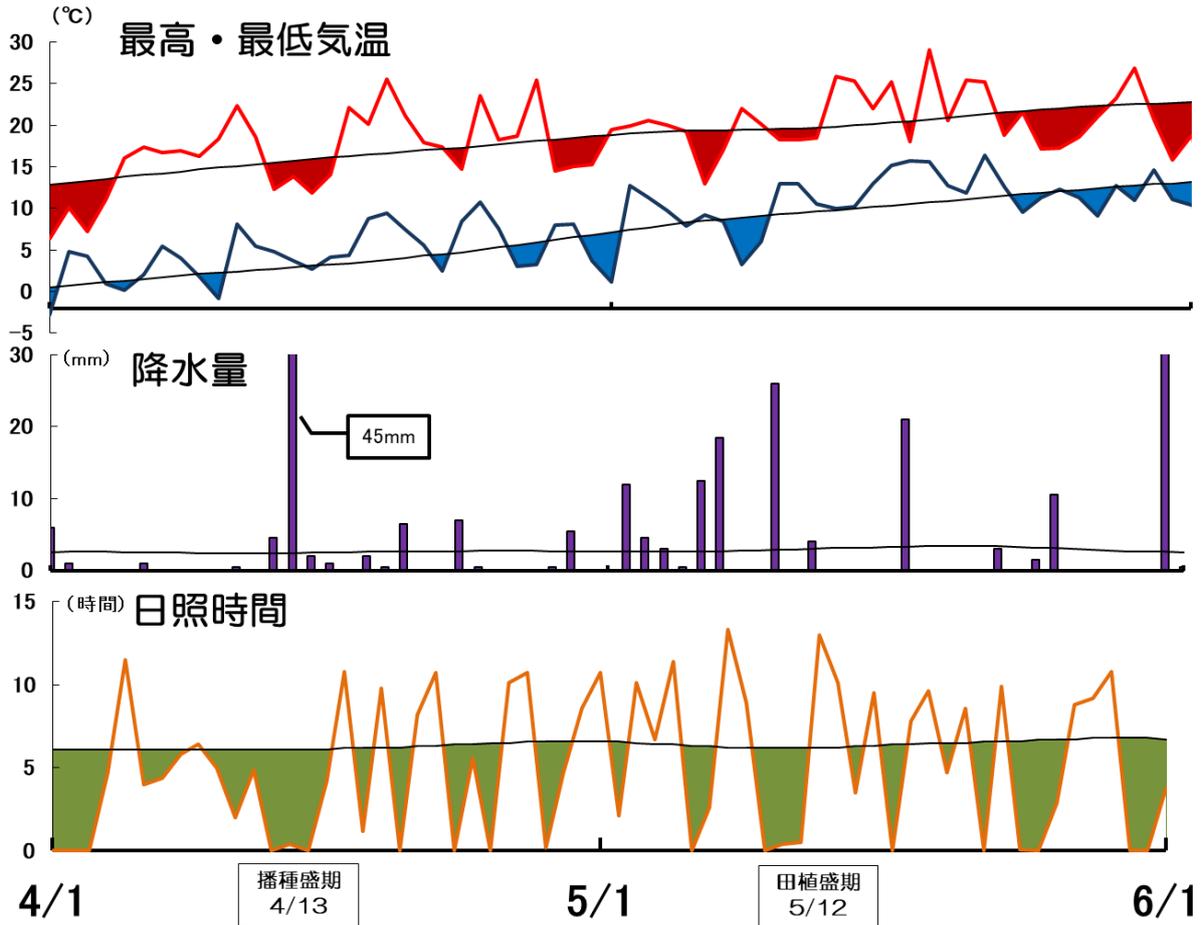
令和7年6月3日発行
宮城県米づくり推進登米地方本部
宮城県登米農業改良普及センター
Tel: 0220-22-6127



<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

1 気象経過

観測地点：米山アメダス



4月の最高気温は平年を上回る日と下回る日が周期的にあり、寒暖差の大きい月となりました。降水量は4月中旬にまとまった雨があり、平年比251%と平年を大きく上回りました。日照時間は平年より少なく平年比72%となりました。

5月中旬の平均気温は2.3℃高くなりましたが、上旬、下旬の平均気温は平年より低い日が続きました。5月上旬は雨の日が続き、降水量は平年比281%と4月と同様、平年を大きく上回りました。5月の日照時間は平年比87%と平年を下回り推移しました。

【東北地方の向こう1か月の天気予報】 令和7年5月29日 仙台管区气象台 発表

期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。平均気温は、高い確率50%です。

2 生育状況

【管内の田植え状況調査】

地帯区分	田植え					
	田植始期		田植盛期		田植終期	
	令和7年	平年	令和7年	平年	令和7年	平年
北部平坦	5月4日 (-1)	5月5日	5月12日 (-1)	5月13日	5月24日 (+3)	5月21日
三陸沿岸	5月8日 (+2)	5月6日	5月14日 (±0)	5月14日	5月23日 (±0)	5月23日
管内平均	5月4日 (-1)	5月5日	5月12日 (-1)	5月13日	5月24日 (+3)	5月21日

※田植始期・盛期・終期は、それぞれ5%、50%、95%田植が終了した日。

※平年値は、過去5か年(令和2年～令和6年)の平均値。()内は平年差。

【水稲生育調査結果(移植)】

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点	栽植密度(株/m ²)	移植日	6月2日	
						草丈(cm)	茎数(本/m ²)
1	ひとめぼれ	Cタイプ	中田町	16.0	5月21日 前年比・差 +2日 平年比・差 +6日	16.6 88%	84.8 114% 98%
2	ひとめぼれ	Cタイプ	登米町	15.9	5月21日 前年比・差 +5日 平年比・差 +5日	18.3 88% 103%	44.5 70% 51%
3	ササニシキ	Cタイプ (復活ササニシキ)	豊里町	15.4	5月12日 前年比・差 +8日 平年比・差 +9日	24.1 100% 95%	92.4 156% 136%
4	つや姫	Cタイプ	迫町	15.7	5月7日 前年比・差 +1日 平年比・差 —	28.7 102% —	149.2 94% —
5	だて正夢	—	迫町	18.6	5月16日 前年比・差 +2日 平年比・差 +1日	20.5 84% 90%	135.8 150% 125%
7	つきあかり	—	豊里町	19.1	5月3日 前年比・差 -1日 平年比・差 —	28.1 89% —	120.3 125% —

※栽培タイプ

Cタイプ：農業・化学肥料節減栽培（慣行栽培の5割減：農業8成分、化学窒素成分3.5kg以下）

※平年値は、過去5か年(令和2年～令和6年)の平均値。

※つや姫、つきあかりは調査2年目のため、本年値、前年比・差を記載。

管内の田植は、始期(5%)は5月4日、盛期(50%)は5月12日、終期(95%)は5月24日で、始期、盛期は平年より1日早くなりました。終期は苗の生育がやや遅れたこと、週末に雨や風により田植えを延期したことから3日遅くなりました。

5月上旬は風の強い日もあり、移植時期の早かったほ場では一部で植え傷みの発生が見られました。

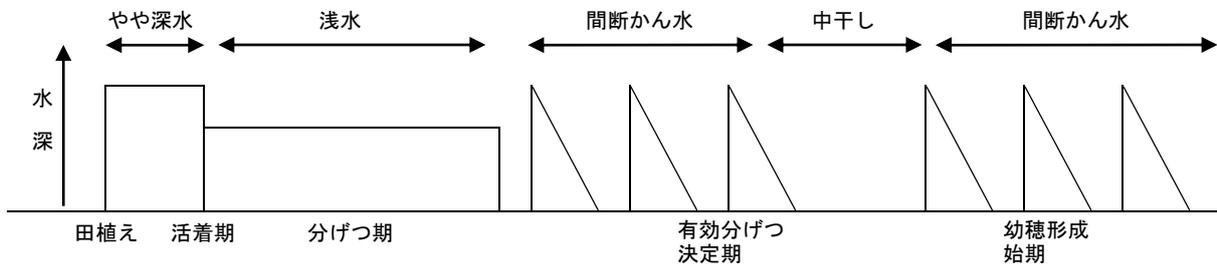
6月2日現在の調査結果について、田植えの早いほ場では分けつが始めており順調に生育しています。登米町のひとめぼれは植付本数が少なかったため、茎数は平年比を下回りましたが、気温上昇にともない今後の茎数増加が見込まれます。

3 今後の管理

【水管理】

水温や地温の上昇を図り、分けつ発生を促すために、水深2～3cmの浅水管理を行いましょう。表層剥離の発生が多く見られる場合、ごく浅水で管理しましょう。

生わらや未熟堆肥をすき込んだほ場では地温の上昇とともにガス(硫化水素)が発生し、生育が阻害されることがあります。ガスが発生した場合は一時落水し、溝切りをして土壌への酸素供給を行いましょう。



【病虫害防除】

① いもち病

残苗(補植用苗)は、本田でのいもち病の発生源となりますので、直ちに、ほ場から取り除き、埋没してください。ほ場の水管理や草刈りの際には、葉いもちの発生に注意し、早期発見・早期防除に努めましょう。

② 斑点米カメムシ類対策（草刈り）

斑点米カメムシ類防除の基本は耕種的防除（草刈り）と薬剤防除を、地域一斉に行うことです。効果的に防除を行い、カメムシ被害ゼロを目指しましょう。

主要種であるアカスジカスミカメの越冬世代成虫は6月上旬～中旬に発生し、特にイタリアンライグラスで繁殖します。

6月中旬までに、休耕田や雑草地・土手・畦畔等のイタリアンライグラス等のイネ科雑草を刈り取り、密度の低下に努めましょう。

③ イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ

葉を食害し、程度が酷いとほ場全体が白く見えるようになります。

箱施用剤を使用した場合は、基本的に本田での防除は必要ありませんが、発生がみられた場合、必要に応じ本田防除を実施してください。

※環境保全米では使用できる農薬が限定されています。使用する際はJAにご相談ください。

【雑草防除】

ノビエやイヌホタルイ等が本田内に残草すると斑点米カメムシ類を本田に呼び寄せてしまいます。本田内の除草に努めてください。

乾田直播栽培の場合、出芽が揃った1.5葉期頃を目安に入水します。入水後、減水深が安定次第、直播に登録のある初中期一発剤を使用時期に合わせて散布します。

その後、稲の生育に合わせて深水にしていくと、後発のノビエやクサネムの抑制に効果的です。

※環境保全米では使用できる除草剤が限定されています。残草してしまった場合は、まずJAにご相談ください。

年々残草量が多くなっているようなほ場では、翌年以降のためにも一般米に切り替えて薬剤で徹底防除することを検討しましょう。

農薬の河川等への流出を防止するために、薬剤散布後7日間は落水、掛け流しはしないこと！

農作業中の熱中症を予防しましょう！！

夏に向けて、農作業中に熱中症になる人が増えてきます。

熱中症は正しい知識を身につけることで、適切に予防することが可能です。

予防のポイント

暑さを避ける

高温時の作業は極力避け、日陰や風通しのよい場所で作業



こまめな休憩と水分補給

喉の渇きを感じる前に、こまめに水分・塩分を補給



熱中症が疑われる場合には

01 作業を中断



(代表的な症状)

- ・ 汗をかかない、体が熱い
- ・ めまい、吐き気、頭痛
- ・ 倦怠感、判断力低下

02 応急処置



- ・ 涼しい環境へ避難
- ・ 衣服をゆるめ体を冷やす
- ・ 水分・塩分を補給

03 病院へ



応急処置をしても症状が改善しない場合は医療機関で診療を受けましょう!!

単独作業は避ける

複数名で作業を行う、時間を決めて連絡をとり合う



熱中症対策アイテムの活用

帽子や吸湿速乾性の衣服の着用、空調服や送風機の活用



農林水産省

熱中症対策パンフレット

3月1日～6月30日は「春の農作業安全運動」期間です。
余裕をもった作業で農作業事故を防ぎましょう。

6月～8月は「農薬危被害防止運動」期間です。
農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。